

第5回 南相馬市復興市民会議 意見のまとめ

■会議で挙げられた質問・意見・要望の集約結果

※：第4回復興市民会議でも出された項目

1. 復興計画の考え方について

- 「心ひとつに」とあるスローガンに向けて原子力災害に負けない復興をすべき

2. 「資料3 第4回南相馬市復興市民会議 質問・意見のまとめ」について

2-1. 主要施策3 経済復興について

基本施策3-1 産業の再生

- 事業者への支援として中心市街地外の地域への拡充に取り組んでほしい
- 事業者、企業も市民。地場企業の雇用を確保するという考えを打ち出してほしい

2-2. 主要施策4 防災まちづくりについて

基本施策4-1 災害に強いまちの創造

- 防災無線は事業者を含め配布し、障害者、子どもでもわかる緊急放送のあり方を見直すべき
- JRや代替輸送による仙台方面への交通アクセスの確保が必要
- 木造建物に対する耐震診断を補助してほしい

2-3. 主要施策5 人づくり・子育て環境の充実について

基本施策5-1 未来を拓く子どもの育成・世代を超えた人づくり

- 安心して子育てができる環境が必要（※）

2-4. 主要施策6 原子力災害の克服について

基本施策6-1 放射性物質による汚染への対応

- 引き続き市民生活の安全を確保するため除染計画を策定し、除染を進めることが必要
- 警戒区域の解除に向けて事前に対処することにより、市民の円滑な帰還に取り組むことが重要

3. 「資料4 第2回南相馬市復興有識者会議 意見のまとめ」について

【主要施策2 市民生活復興】

- 安全で安心なまち、魅力のあるまち、希望と期待の持てるまちにしてほしい
- 医療スタッフを確保し安心して住める南相馬市にしてほしい

【主要施策4 防災まちづくり】

- 震災の記憶を継承する鎮魂の森、サイクリングロードなどでまちを結ぶといった提案を取り入れてほしい
- 市全体ではなく、地域が連携をとることができる防災計画が必要
- 工業団地、再生エネルギーゾーンを支える道路・交通基盤の整備、未利用地の活用が必要
- コンパクトシティと中心市街地活性化に向けた対応が必要

【主要施策5 人づくり・子育て環境の充実】

- 子どもが育つ力をはぐくむためには文化の力が必要

【主要施策6 原子力災害の克服】

- 市民で行う除染の支援は除染計画に基づき行うことが必要

■会議で挙げられた質問・意見・要望

※：第4回復興市民会議でも出された項目

1. 復興計画の考え方について

○「心ひとつに」とあるスローガンに向けて原子力災害に負けない復興をすべき

- ・復興計画の基本に、南相馬市はひとつとある。市の中で原発に関する区域が3つに設定されているがどうなるのか。

⇒市) 制度的なものは市だけでは決められないが、先日、大臣にもお願いしてきた。義援金の問題、放射性物質の問題、病院や介護の対応についても市の考え方を説明している。

2. 「資料3 第4回南相馬市復興市民会議 質問・意見のまとめ」について

2-1. 主要施策3 経済復興について

基本施策3-1 産業の再生

○ 事業者への支援として中心市街地外の地域への拡充に取り組んでほしい

- ・中心市街地外で起業する方も多い。中心市街地の活性化の地域を拡充して取り組んでほしい。

○ 事業者、企業も市民。地場企業の雇用を確保するという考えを打ち出してほしい

- ・事業所、企業も一人ひとり市民であるという観点で考え、「雇用を確保し市民生活を安定させる」ということであれば、「地場企業に雇用を確保する」といった地場企業を保護するための文言を入れてほしい。そうすれば、地場企業の方も市が忘れないでいてくれると安心できると思う。

⇒市)

- ・市では企業立地促進条例を持っており、復興計画においても市は企業と一緒に対応する。文言の追加は了解した。

2-2. 主要施策4 防災まちづくりについて

基本施策4-1 災害に強いまちの創造

○ 防災無線は事業者を含め配布し、障害者、子どもでもわかる緊急放送のあり方を見直すべき

- ・防災無線についての回等である原町区だけでなく鹿島区にも防災無線の対処をお願いしたい。
- ・鹿島区の自宅にいて全戸配布されているが、職場団体の希望をとって会社にも配布したほうがよい。
- ・防災無線の放送のあり方について見直ししてほしい。緊急状態のレベルの設定があったほうがよい。放送をよく聞かないとわからない、職場で聞こえない、区長さん頼り、地域

で聞こえないでは困る。アラームの種類で区別してはどうか。障害者、子どもにもわかりやすいような情報伝達の方法を考えてほしい。

- ・震災による経験を生かし、区長の役割や伝達のしかたについて、防災システムの見直ししてほしい。区毎の対応にばらつきがないようにすることが重要。

○ JRや代替輸送による仙台方面への交通アクセスの確保が必要

- ・受験を迎える時期になるのでJRの再開を早めてほしい。
- ・JRの社長に、年内開通をお願いしている。現在、明確な回答はないが、12/31にでも開通するよう要望していく。
- ・原町・相馬間がJR開通すると、原町・相馬間の代替輸送がなくなってしまう。その際、原町から仙台に行く場合、相馬で乗り換えすることになる。原町から仙台まで乗り換えなしでいく交通手段が必要。法律に縛られない特区構想をもって対処してほしい。

○ 木造建物に対する耐震診断を補助してほしい

- ・福島建築センターでの無料相談を対応しているが、震災後、木造建物に対する耐震診断に対する補助がなくなっている。

2-3. 主要施策5 人づくり・子育て環境の充実について

基本施策5-1 未来を拓く子どもの育成・世代を超えた人づくり

○ 安心して子育てができる環境が必要（※）

- ・安心して子育てができる子ども教育についてのプログラムは難しいということでくくらないで、市から県へ積極的に提案してほしい。
- ・放射線量の高い地域で子どものいる世帯の居住の確保について、対応してほしい。

2-4. 主要施策6 原子力災害の克服について

基本施策6-1 放射性物質による汚染への対応

○ 引き続き市民生活の安全を確保するため除染計画を策定し、除染を進めることが必要 【除染】

- ・今後の市の除染計画を教えてください。

⇒市)

- ・福島県では1,800億円の除染基金が準備されている。市では南相馬市では10月末までに除染計画を策定する予定。除染対策室で作業を進めている。事業主体と仮置き場を明確に定める必要があり検討している。1月末からは除染作業を進められると考えている。

【仮置き場】

- ・二本松では汚染土を国有林に仮置きする方針を出している。南相馬市でも汚染土を、海岸にある国有林に仮置きすることができるのではないかと。

⇒市)

- ・海岸沿いに30ないし50m幅で防潮林の国有林がある。提案のように、汚染物質の仮置き場に活用できる。
- ・福島県では高さ7.2mの堤防を整備する。市ではその背後地にある程度の高さと幅を持った防災林ができないか、模索をしている段階である。汚染度合いの低い土壌を仮置き場として検討できる。

○ 警戒区域の解除に向けて事前に対処することにより、市民の円滑な帰還に取り組むことが重要

- ・今後のポイントは、警戒区域内に線量の高い場所の対処と、原子炉の冷却状況が安定化するかが判断材料となる。ステップ2の完了は前倒しの方向で年内に方向性が出されるのではないかという状況。市としては、警戒区域が解除される前から準備しなければならないということで、来年3月までのロードマップをつくっている。解除前から道路などについての対処については事前に委託して取り組んでいる。
- ・本日の平野復興大臣、復興本部長との会談でも、今後も見通しを明らかにするようお願いした。

3. 「資料4 第2回南相馬市復興有識者会議 意見のまとめ」について

【主要施策2 市民生活復興】

○ 安全で安心なまち、魅力のあるまち、希望と期待の持てるまちにしてほしい

- ・いかに安全で安心なまちをつくるか。魅力あるまちをつくるか。希望と期待の持てるまちとしていくべき。そのためのビジョンがあってよい。
- ・人のために尽くすという気持ちがないのではないか。コミュニティや絆もなくなってきている。企業も汗を流して働いている。目標があれば企業もがんばれる。市としても検討してほしい。
- ・現状は変化してきている。市民が納得する復興ビジョンがあってよい。目標があれば、心ひとつに、乗り越えていけると思う。

○ 医療スタッフを確保し安心して住める南相馬市にしてほしい

- ・市民生活復興の医療については、最重点課題として、特別チームをつくって立て直しをすべく、力を入れてほしい。
⇒市) 福島県立大学病院でも医療スタッフが少なくなっている。理由は放射性物質に対する不安である。医療スタッフが子どもを抱えており不安が大きい。国に頼ってばかりではなく、市は使命感を持って取り組んでいる。
- ・医師会としても努力してはいるが、若い看護師の確保が課題。その他、薬剤師、放射線技師、給食といった様々なスタッフが関わっており、避難していることが課題になっている。解除になったということで、今まで通り病院のベッドを使っていいといわれるが、使えない状況がある。
- ・小さな子どもを抱えているが避難させている。医師や看護師不足で医療機能が低下したままでは、若年層は市かが出て行くのが現実である。

- ・国が安全宣言を出さない限り、市民は戻ってこないのではないかと。将来的にビジョンがまとまるということだが、除染作業が終わって安全宣言が出せるのか、と思う。
- ・誰もが安全だといってもらわない限り、帰らない。今後、安全宣言を出してほしい。
⇒市)・安全宣言ということは難しいだろう。国が責任をとらないのに市が責任をとるということはできない。
 - ・ただ、放射線の量をここまで下げたということ是可以する。来年に終わるとか再来年に終わるということはわからないが、市は安全といわれるまで除染作業を行う。国の安全だといえない段階であるので、市としては専門家の指示を受けながら引き続き対処を続けたい。
- ・医師は国によって免許交付されている。日本人がアメリカに行って医療はできない。海外の医師が日本にきて医療に携わることはできないので、日本の国家試験を受けて医療活動を行うことになる。
- ・南相馬市の内部被曝の検査を行った。3～4,000人のデータがあると思うが、どうなっているか。
⇒市)・統計的なデータとして近々発表されることになる。私のところに詳細なデータはきていない。
- ・長期的なことであれば、世界の英知をどう集めるか、技術やデータをいかに集めるか。目先のことを考えるばかりに、長期的な視点を忘れることのないようにしてほしい。長期的な対応を迫られる対応もあることを認識していくべき。

【主要施策4 防災まちづくり】

- 震災の記憶を継承する鎮魂の森、サイクリングロードなどでまちを結ぶといった提案を取り入れてほしい
 - ・モニュメントをつくる以前議論があった。有識者会議でも議論されたようだが、鎮魂の森、サイクリングロードをつくるという提言はよい。
 - ・オランダのように環境にやさしい、CO₂を出さない、健康になれるまちを夢見ていた。このようなまちができたらうれしい。
 - ・鎮魂の森まで行くのにサイクリングロードだけでなく、飯館のように、公認のマラソンコースも入れてほしい。
- 市全体ではなく、地域が連携をとることができる防災計画が必要
 - ・防災計画の中にはまち全体ということで計画されている。地域の連携をとれる防災計画はつくりにくい。しかし、災害時は住んでいる以外の連携が重要。
- 工業団地、再生エネルギーゾーンを支える道路・交通基盤の整備、未利用地の活用が必要
 - ・土地利用計画の図について。工業団地にしても何箇所がある、再生エネルギーゾーンなど、国道6号の左右にある。物流は、国道6号を中心に考えているのか、新しい道路は考えているか。
⇒市)・従来の道路としては、南北に、山側の県道36線相馬浪江線、国道6号、浜通り

の3本、東西には県道12号線を考えている。それに加えて高速道路ができようとしている。高速道路南側の早期復旧と延長の整備を要望していく。有識者会議でも出されたが、相馬港や仙台港、仙台空港の問題もあるが南北方向の道路についても検討したい。従来からの検討事項である県道12号のトンネル化については検討している。高速道路からのアクセス道路についても一部凍結している部分もあるので、整備の促進していきたい。併せて、サービスエリアに伴うスマートインターの導入も要請していく考えである。

- ・サービスエリアの背後地については、物流の基地や防災機能の要所となるのではないかな。原町火力発電所の灰の捨て場は、国道6号へのアクセスもよく活用が可能ではないかな。
- ・常磐線の関係では、相馬市も新地町も、駅を2駅持っていた。福島県は新駅構想があるようだ。原ノ町駅と鹿島駅間は距離があるので、従来より新駅設置と駅周辺のベッドタウンが可能ではないかと考えられていた。復興計画に組み入れられるものがあれば、この際、入れたらよい。

○ コンパクトシティと中心市街地活性化に向けた対応が必要

- ・コンパクトな市街地の形成と中心市街地の活性化に向けた取り組みを進めるべき。
- ⇒市)・コンパクトシティに関しては、災害公営住宅は市内に誘導していきたい。集団移転の候補地については、市街地の周辺につくって、中心市街地の活性化を図ってきたい。

【主要施策5 人づくり・子育て環境の充実】

○ 子どもが育つ力をはぐくむためには文化の力が必要

- ・子どもを育てる「子育て」ではなく、子ども自身が生きる力、という観点からの「子育て」が重要。これを考えると「文化」の力が必要。人間が生きるにあたって、文化を形成することが重要なので入れてほしい。

【主要施策6 原子力災害の克服】

○ 市民で行う除染の支援は除染計画に基づき行うことが必要

- ・除染推進月間ということで、自分のまちでも23日に実施することになった。なぜ、やらなければならないかということで、相当議論した。ただ、最後は、自分達の命は自分達で守らなければならないという結果になった。市民による除染活動が復興には必要である。
- ・除染活動を行っているようだが、ところどころ、側溝は高い線量になっている。線量計を貸し出しするので、個人で行ってほしいといわれる。高齢者の場合、ボランティアを出すということだ。以前、学校など公共施設は行政が担当すると聞いた。一般家庭には限界がある。
- ・計画を策定している中で、最終的に仮置き場が決まらない中で、二重手間になるのではないかな。仮置き場などしっかり決めて、しっかりと計画を立てて、除染を進めるということでも遅くはないのではないかな。まず、計画が大事。

⇒市)・現在、市では除染計画を今月中には作成していく予定で検討を進めている。警戒

区域と計画的避難区域については、国が責任を持って除染する。それ以外は自治体が事業主体となって除染を行うことになっている。それに対する支援は行う。側溝や屋根について、市民ができないところは行政が対処すべきということを考えている。しかし、区域が広いので、優先的順位を決めて対処する。屋根を除染すると、雨どいやその周りなど線量が高くなることから、土壌を仮置きする必要もでてくると考えている。

- ・計画を策定している中で、最終的に仮置き場が決まらない中で、二重手間になるのではないか。仮置き場などしっかり決めて、しっかりと計画を立てて、除染を進めるということでも遅くはないのではないか。まず、計画が大事。
- ・専門家からみてどういう方法で実施すればよいか、専門家のアドバイスを受けながら指導してほしい。
- ・除染については、朝日新聞では効果がないところで除染をやりすぎる必要はないという記事があった。原町区のまち中の場合、区の集まりもないところである。区長の判断で実施すべきということであれば、自分は参加したいと考えている。
- ・自分の行政区では側溝の除染の協力があり活動してきた。線量計を持っていった。マスク、手袋をして行った。区長によって異なる。汚染土は、行政で行う日に合わせてもって行ってもらう、ということになっている。
- ・ある市では、放射能の2次・3次の処理はどうするかが課題であるが、ゼオライトで包んで凝縮し、安全な入れ物に包み保管している。仮置き場も決まっていなのに除染するのはどうだろうか。一般の側溝については、市でやり直しのないような指導をすべき。
⇒市)・公共施設の除染については、ゼネコンさんに発注している。作業方法については、大学の先生の助言を得ながら作業をしている。校庭は5 cm、植え込みは10 cmの除去を行い、検査後、ゼオライトで包み、校庭ではその一角に50 cm以上遮蔽している。
 - ・国についてのマニュアルを要望しているが頂けていない。
 - ・早く統一的なものができるとういと思っている。
- ・除染については、国が行うのか、自治体が行うのか。自治体が行うといっても国が責任を持って対処してほしい。そのためのプロを養成して行ってほしい。